

RETAILER ACADEMY NEWS

Jun 2023 | Bentley Motors Japan



新製品情報 ペイント プロテクション フィルム& 24MYの新色

ベントレー モーターズがこのほどリリースした新製品をご紹介します。いずれもお客様にとってメリットの多い製品です。積極的におすすめください。

飛び石の傷などから保護

ペイント プロテクション フィルム

新車のオーダーを受ける際に、透明で高性能なエラストマー・ポリウレタン フィルムを貼付するペイント プロテクション フィルムを日本でも導入することになりました。飛び石による塗装の欠けや軽度の傷を防ぐ効果があります。フィルムには自己修復特性があるため、スクラッチや細かい磨き傷から塗装面を保護します。さらに汚れの防止やUVカットの効果も発揮し、透明感のある仕上がりを提供します。フィルムは車両の製造工程の一部として施工され、スペシャリストのチームがこれを担当します。

ペイント プロテクション フィルムは、現行の全モデルで選択できます。フィルムが貼付されるのは、ボンネット、左右フェンダー、アッパーバンパー&けん引バーのカバー、ロワーバンパー、ロワーフロントスプリッター、ドアミラーカバー&ミラー基部で、カーボンファイバーのボディキットや、グロスブラックのディテールも含め、各パネルの形状に合わせて専用設計され、カットされています。ただし、クロームのディテール部分と、サテンカラーで塗装された車両には施工できません。

フィルムは耐久性と品質に関するさまざまなテストをクルーで実施済み。テストの例を挙げると、100,000kmの耐久テスト、90℃・240



時間の耐熱テスト、90℃・300時間の耐ケミカルテスト、飛び石での耐久テスト、耐薬品性（ガソリン、鳥のフン、洗浄剤など）といったものです。

フィルムが損傷した際の対応やメンテナンスについての詳細は、ベントレー モーターズ ジャパンよりお送りした資料をあらためてご確認ください。

サテンカラー 6色を含む モダンなペイントを追加

24MYでは、カラーパレットにも大きな変更が加えられます。

まず、新色としてトパーズブルーがマリナーペイントとして追加されました。また、6色のサテンカラー（アップルグリーン サテン、ブリティッシュレーシンググリーン4サテン、キャンディレッド サテン、ライトサファイア サテン、オレンジフレイム サテン、ロイヤルエボニー サテン）もマリナーペイントとして追加されました。これにより、サテンカラーは既存のものを合わせて10色に増えたことになります。

そして、新しいサテンカラーがマリナーペイントに追加されたことに合わせ、これまで通常のオプションペイントだった6色（アルパイングリーン、アンスラサイト、ブリティッシュレーシンググリーン4[ソリッド]、



24MYから追加された新色「トパーズブルー」。

クリケットボール、エクストリームシルバー、オレンジフレイム）がマリナーペイントとして設定されました。販売店の収益向上にもつながりますので、オプションカラーおよびマリナーカラーを積極的におすすめください。



マリナーペイントにサテンカラーを6色追加。写真上はブリティッシュレーシンググリーン4サテン、写真下はキャンディレッド サテン。





製品内容を大幅アップグレード ポルシェ カイエ

ポルシェジャパン株式会社は、2023年4月18日に上海モーターショーで発表された新型カイエンおよびカイエンクーペについて、同日より予約受注を開始しました。

SUMMARY

- マイナーチェンジモデルとしては、ポルシェ史上最大級の広範な製品アップグレードを実施
- 全面的に見直されたディスプレイおよびコントロール系のコンセプト
- ドライバーがよく使う機能をステアリングホイールとその周囲に配置したドライバー重視の操作系
- フロントエンドを刷新し、より表情豊かなデザインに改められたエクステリア
- BEVの導入を想定した新たなエンジンラインアップ



INTERIOR

- 大幅にデジタル化され、タイカンと同様のデザインテイストとなったダッシュボードおよびセンターコンソール
- オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、従来のセンターコンソールからダッシュボードに移設
- 従来セレクターレバーがあったセンターコンソールにはエアコンの操作パネルと小物入れを設置し、より洗練されたデザインを実現
- メーターパネルにはフルデジタルの12.6インチディスプレイを初採用。オプションとしてヘッドアップディスプレイを用意
- 助手席にはカイエン初となる10.9インチディスプレイを設定。助手席からも走行情報の確認、インフォテインメント操作などが可能に



EXTERIOR

- 新デザインのマトリクスLEDヘッドライトを標準装備。オプションとしてHDマトリクスLEDヘッドライトを設定
- HDマトリクスLEDヘッドライトは片側32,000以上の画素で構成。モジュールの明るさは走行状況に応じて1,000段階以上に調節可能
- タイカンのように左右を一直線につなぐリアコンビネーションランプを採用。立体的かつワイド感を強調したデザインに変更
- 従来のカイエンではテールゲートに配置していたナンバープレートリアエプロン部に移設。カイエンクーペと同様のデザインに変更
- ホイールは、新デザインの20、21、22インチを用意。豊富なラインナップによりユーザーの好みにフレキシブルに対応



TECHNOLOGY

- トップモデルのカイエンSは、従来の3.0L V6エンジンから4.0L V8ツインターボエンジンに換装。最高出力は34PS増の474PS、最大トルクは50Nm増の600Nmに強化
- プラグインハイブリッドのカイエンE-ハイブリッドは、3.0L V6エンジンに130kW (176PS) を発揮する電気モーターを搭載。合計出力は470PSに強化
- カイエンE-ハイブリッドは、高電圧バッテリーの容量を従来の17.9kWhから25.9kWhに拡大。電気のみによる航続距離は最長90km (WLTP) にアップ
- 電子制御ダンパーシステムの「PASM」には、新たにショックアブソーバーの圧縮側とリバウンド側の減衰力を別々に制御する2バルブ式を採用
- サスペンションはコイルスプリングが標準。オプションのアダプティブエアサスペンションは、新たに2チャンバー、2バルブ式を採用



PRICE

カイエン：	11,980,000円(税込)
カイエンE-ハイブリッド：	13,950,000円(税込)
カイエンS：	15,610,000円(税込)

カイエンクーペ：	12,730,000円(税込)
カイエンE-ハイブリッドクーペ：	14,400,000円(税込)
カイエンSクーペ：	16,440,000円(税込)

COMPETITOR INFORMATION

ニューモデル 発売：2023年4月25日 / デリバリー：開始済み

メルセデスAMG SL 63 4MATIC+



- ・最高出力458PS、最大トルク800Nmを発揮する4.0L V8ツインターボエンジンを搭載
- ・70年近くにおよぶSLの歴史の中で、初となる四輪駆動「4MATIC+」を採用。リア・アクスルステアリングも初採用
- ・メルセデスAMGの量産モデルとしては初となる、アンチロール機能を備えたAMG ACTIVE RIDE CONTROLサスペンションを搭載

車両価格 (税込)	メルセデスAMG SL 63 4MATIC+：28,900,000円
--------------	------------------------------------

一部改良 受注開始：2023年4月27日 / デリバリー：未定

ランドローバー・ディフェンダー 2024年モデル



- ・従来ガソリンエンジンのみだった「90」に、3.0L直6ディーゼルエンジンを追加
- ・「90」「110」には、最高出力525PS・最大トルク625Nmを発揮する5.0L V8スーパーチャージドエンジン搭載の「CARPATHIAN EDITION」および「V8」を2024年限定グレードとして追加
- ・「130」に5人乗りモデルの新グレード「OUTBOUND」を導入。「110 S」「110 SE」には「COUNTY EXTERIOR PACK」を導入

車両価格 (税込)	主なグレード	
	DEFENDER 90 V8：	14,420,000円
	DEFENDER 90 CARPATHIAN EDITION：	15,360,000円
	DEFENDER 110 V8：	15,260,000円
	DEFENDER 110 CARPATHIAN EDITION：	16,200,000円
	DEFENDER 130 OUTBOUND：	11,500,000円

一部改良 発表：2023年3月20日 / デリバリー：未定

日産GT-R 2024年モデル



- ・フロントバンパーとリアバンパー、リアウイングに空力性能を向上させる新たなデザインを採用。空気抵抗を増加させることなくダウンフォースの増加を実現
- ・走行時の不要なノイズと振動を低減する新車外騒音規制対応の新構造マフラーを採用
- ・GT-R NISMO/NISMO Special edition、GT-R Track edition engineered by NISMO/Track edition engineered by NISMO T-specは今夏発売予定

車両価格 (税込)	GT-R Pure edition：	13,750,000円
	GT-R Black edition：	15,350,500円
	GT-R Premium edition：	14,840,100円
	GT-R Premium edition T-spec：	18,960,700円

ニューモデル 発売：2023年4月3日 / デリバリー：2023年7月以降

BMW X5/BMW X6



- ・2019年に登場のX5の第4世代モデルおよびX6の第3世代モデルの内外装を変更したフェイスリフトモデル
- ・ヘッドライトは、BMWモデルとして初採用となる矢印型デイルイト機能を有したLEDヘッドライトを採用
- ・インテリアは、12.3インチのメーターパネルと14.9インチのコントロールディスプレイを一体化させ、運転席側に湾曲させた最新のカーブド・ディスプレイを採用

車両価格 (税込)	BMW X5 xDrive50e M Sport：	12,600,000円
	BMW X5 M60i xDrive：	15,200,000円
	BMW X5 M Competition：	19,720,000円
	BMW X6 M60i xDrive：	16,220,000円
	BMW X6 M Competition：	20,120,000円

ニューモデル 予約受注開始：2022年5月10日 / デリバリー：未定

ポルシェ 718スパイダー RS



- ・718ケイマンGT4 RSと同様に、4.0L自然吸気6気筒ボクサーエンジンをミッドシップに搭載する718ボクスターのトップモデル
- ・911 GT3譲りの水平対向6気筒エンジンは最高出力500PS、最大トルク450Nmを発揮。トランスミッションは7速PDK
- ・CFRP製ボンネットの装備などにより、PDK搭載の718スパイダーより40kgの軽量化を実現。0-100km/h加速は3.4秒、最高速度は308km/h

車両価格 (税込)	ポルシェ 718スパイダー RS：20,240,000円
--------------	------------------------------

一部改良 受注開始：2023年3月22日 / デリバリー：未定

ジャガー Fタイプ 2024年モデル



- ・1948年の「XK120」から始まったジャガースポーツカーの歴史が75年目となることを記念し、「F-TYPE 75」および「F-TYPE R75」の2つのグレードを設定
- ・内燃機関を搭載した最終モデルとして、クーペには最高出力300PS・最大トルク400Nmの2.0L直4エンジンを搭載する「P300」、5.0L V8エンジンで最高出力450PS・最大トルク580Nmを発揮する「P450」と最高出力575PS・最大トルク700Nmの「P575」の3種類を設定
- ・コンバーチブルには、最高出力450PS・最大トルク580NmのF-TYPE 75 P450 CONVERTIBLEを設定

車両価格 (税込)	F-TYPE R-DYNAMIC P300 COUPÉ：	10,430,000円
	F-TYPE 75 P450 COUPÉ：	15,890,000円
	F-TYPE R 75 P575 COUPÉ：	17,900,000円
	F-TYPE 75 P450 CONVERTIBLE：	18,330,000円

MULLINER

マリナーのパーソナライゼーションの奥深さを示すバトゥール

ベントレー モーターズはこのほど、バトゥールのパーソナライゼーションのプロセスを発表しました。

バトゥールは、マリナーが手掛ける最新にして最高峰のコーチビルド グランドツアラーです。お客様のパーソナライゼーションの参考にさせていただくために、カラー、素材、仕上げの各チームが、宇宙からインスピレーションを得て素材とカラーのコンビネーションを作り出しました。

マリナーから提案されるコンビネーションは、異なるテーマに沿って作られた4種類。テーマ1のNebula（星雲）は、ブラックと鮮やかなグリーン「ワサビ」のコントラストが印象的な内外装で、ハイパフォー



マンス志向を強く意識した大胆な仕様となっています。テーマ2のSupernova（超新星）は、灼熱をイメージしたボディカラー「サンビーム」とインパクトのある内装の組み合わせで、超新星の破壊的なエネルギーを感じさせる効果があります。テーマ3のHyperspace（超空間）は、深みのあるメタリックな「ディブライトブルー」に、セントジェームズレッドのアクセントを加えたスポーティな仕様で、静止時でもスピード感を感じられるようにデザインされています。テーマ4のDark Matter（暗黒物質）は、ファインブロードガーとブラッククリスタルのデュオトーンで、洗練された印象を与える仕様となっています。

バトゥールは、サステナビリティを意識して製造される未来志向のモデルでもあります。例えば軽量・高強度な素材として広く知られるカーボンファイバーの代替品として、天然素材を使用した高機能コンポジットを開発して採用しています。マリナーのパーソナライゼー

ションにおいても、ベントレーの「サステナブルなラグジュアリーカーブランドになる」という目的ははっきりしており、バトゥールはこれからの時代に合わせたパーソナライゼーションの奥深さを示す代表作となることでしょう。





W12エンジンのデビュー 20周年を記念 特別仕様車「Edition 12」の特徴

ベントレー モーターズはこのほど、ベントレーの象徴であるW12エンジンを記念した限定モデル「Speed Edition 12」を発表しました。

販売店の皆様には、ベントレー モーターズ ジャパンから正式にご案内したところです。

今回は、この限定モデルの特徴を簡潔にまとめました。お客様へのご案内時の参考にしてください。



Speed Edition 12とは？

- 世界で最も成功した12気筒エンジンのデビュー 20周年を記念して製造
- ベンティガ、フライングスパー、コンチネンタルGT、コンチネンタルGTCのSpeedをベースモデルとした「究極のパフォーマンス」ベントレー
- 4モデル各120台のみの限定生産
- ベントレーを象徴するW12エンジンを表現した専用デザインを内外装に採用

EXTERIOR <エクステリアの特徴>

- 「EDITION 12」ロゴバッジ (GT/GTC：フロントフェンダー、フライングスパー/ベンティガ：Dピラー)
- シルバー ブレーキキャリパー
- 22インチ Speed 専用ホイール (ブラックペイント仕上げ) & セルフレベリング ホイール バッジ
- Edition 12でのみ選択可能な OPALITEペイント (その他のカラーもすべて選択可)
- ブラックライン スペシフィケーション
- スタイリング スペシフィケーション (オプション)
- カーボンファイバー ミラーカバー (ベンティガのみ)
- エンジンルームのナンバリング入り「EDITION 12」ロゴ プレート



INTERIOR <インテリアの特徴>

- Edition 12 専用カラースプリット
- グランドブラック ヴェニア
- 助手席側フェイスパネルに「Speed Edition 12」ロゴと12気筒の点火順序を記したインレイ
- 「12」刻印入りオルガンストップ
- 「EDITION 12」ロゴLEDウェルカムランプ
- 「EDITION 12」ロゴ イルミネーテッド トレッドプレート (ベンティガ)
- 「EDITION 12」ロゴ ステッププレート (コンチネンタルGT/GTC、フライングスパー)



MEMORIAL ITEM <メモリアルアイテム>

- W12エンジンの1:7スケールモデル
- 12気筒のエンジンブロックのリサイクルアルミニウムを使用して鋳造



ベントレーが取り組む サステナビリティ

毎年6月5日が「環境の日」と定められていることから、この日を含む6月は環境月間として、環境省ではさまざまな取り組みを行っています。

環境といえば、ベントレー モーターズはこのほど、グローバルな専門家で構成されるチームで、Beyond 100 戦略で示されたサステナビリティに関する目標の達成に向け、検証と支援を目的とする「ベントレー サステナビリティ カウンシル」を設立しました。設立の発表と同時に、ベントレー初のサステナビリティレポートも発表されています。

このカウンシルは、外部の声を取り入れることで2030年までにエンドツーエンドのカーボンニュートラル達成を目的としたBeyond 100 戦略を検証し、それを後押しする新しいアイデアをもたらすものです。カウンシルのメンバーは、サリー・ユーレン博士（OBE、フォーラムフォーザフューチャー社最高経営責任者）、アンドリュー・デント博士（マテリアル コネクション社材料研究担当役員）、ニコラス・ギャレット



ベントレー サステナビリティ カウンシルのサリー・ユーレン博士、アンドリュー・デント博士、ニコラス・ギャレット博士。



ト博士（RCS グローバルグループ共同設立者兼ディレクター）の3人です。サステナビリティレポートでは、サステナビリティに向けた道筋をオープンで透明性のある形で説明しています。

また、約5年前から始まったクルー本社敷地内でのミツバチの飼育でも進展がありました。今年は「エクセレンス センター」に巣箱を新たに7つ設置し、計17個の巣箱のミツバチの数は100万匹以上となりました。これまでは地元の養蜂家の手を借りてミツバチの飼育を行っていましたが、現在ベントレーは従業員に野草の種を配り、地域社会に植えることで、地域の生物多様性を向上させることを奨励しています。

昨年は瓶詰めで1,000個以上のハチミツを収穫でき、敷地内の植物の受粉を助け、チェシャー地方の田園地帯に広く恩恵をもたらすとい

う成果を上げましたが、今年はさらに大きな成果が期待されています。



今年は17個の巣箱が設置された「エクセレンス センター」。ミツバチは100万匹以上になりました。

PEOPLE

デザイン部門のディレクターに ロビン・ページが就任



ベントレー モーターズはこのほど、9月1日付でデザイン部門のディレクターにロビン・ページが就任することを発表しました。

ページは自動車のデザインにおいて30年以上の経験を持ち、直近ではボルボ カーグループでさまざまな職務に就いていました。また、ボルボのグローバルデザインおよびUXの責任者として、ボルボの電気自動車の未来に向けたデザイン言語の構築に貢献してきました。ボルボ以前では、2001年から2013年までベントレーのインテリアデザイン責任者を務め、ベントレーの象徴となった初代コンチネンタルGT、ラグジュアリーカーの最高峰として名を馳せたミルサンヌ、英国王室に納車したステートリムジンなどを手掛けました。ページは就任後、エイドリアン・ホールマーク会長兼CEOの直属となります。

ホールマーク会長兼CEOは、「ベントレーの歴史において、セグメントを定義づけたコンチネンタルGTを手掛けるなど、まさに形成期を共に過ごしたページを再びベントレーの一員として迎えることを喜ばしく思います。これまでの経験がベントレー ブランドへの強い理解と相まって、サステナブルなラグジュアリー モビリティのリーダーになるという目標達成の一助なるでしょう」などとコメントしています。

9月1日から約50人のデザイン専門家チームを率いるページは、「ベントレーで勤務した17年の経験から、私は常にこのブランドと強い絆を感じ、その進化に注目してきました。過去と現在の連続性を保ちながらルールを再定義し、ベントレー初のBEVのデザイン言語を構築する機会を得られたことを嬉しく思います」などと意気込みを語っています。

EVENT

GOODWOOF でベンティガ Sの 特別ラッピングモデルを披露



英国ウェスト・サセックスのグッドウッドで先月開催された犬の祭典「Goodwoof」で、自動車パートナーとして参加したベントレー モーターズは、ドッグタグや毛皮をデザインしたラッピングを施したベンティガ Sを披露しました。イベントには大小さまざまな種類の8,000頭もの子犬が集結しましたが、犬を模したラッピングのベンティガ Sは、「希少種」として注目を集めました。フェスティバルで最も人気のあったアクティビティの1つが「シープドッグ ベントレー」で、ベンティガが「牧羊犬」となり、羊たちを巧みに誘導して1カ所に集めると、洗車と掃除機での清掃、充電という「ご褒美」を獲得。観客からは拍手喝采を受けました。

この特別ラッピングをデザインしたのは、ベントレーのダイバーシティとインクルージョンへの取り組みを表現した「ユニファイングスパー」を担当したリッチ・モリスで、このマッドコート completionまでは4日間を要しました。このベンティガ Sはまた、「ベントレー」と名付けられた犬とその飼い主（「ベントレー」は英国で人気のある犬の名前）をベントレー パーキング パドックへと送り届ける役割も担っていました。さらにベントレーに乗り込んで写真を撮るサービス「Pup-arazzi（パプアラッツィ）」も提供し、写真が映えるように送風機も設置するなど、犬にスポットライトを当てるための舞台を整えました。このサービスでは2,000枚を超える写真が撮影されました。

インバーターの働きと仕組み

クルマの電動化で必須となるのがモーターです。そして、そのモーターを制御するのがインバーターとなります。
今回は、インバーターの役割と、その仕組みを説明します。



最新のEV用パワートレインでは、写真のようにモーターとインバーターを一体化したe-Axelが使われます。写真は日産が開発中の次世代パワートレインです。



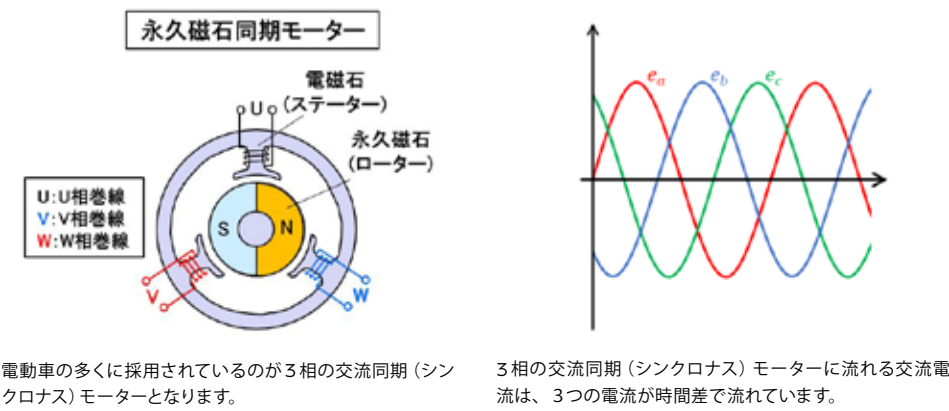
量産されているプラグインハイブリッド車で使われているインバーター。アルミブロックの中に電子基盤が収められています。



モーターとインバーターなどを一体化したEV用パワートレインを透明のプラスチックにしたもの。中に見える黒い部品がインバーターとなります。

モーターが回る仕組み

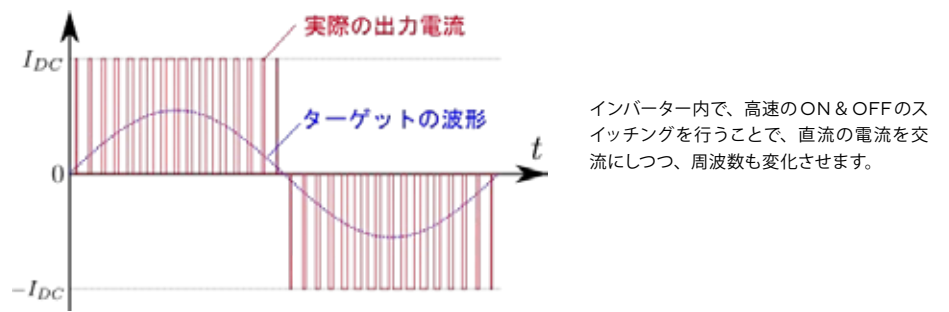
現在のハイブリッドカーやEVなどに使われる駆動用のモーターは、その多くが3相交流同期（シンクロナス）モーターと呼ばれるものです。真ん中に永久磁石のローターがあり、その周囲を電磁石のステーターが囲んでいます。ステーターにある3つの電磁石は、3相の交流電気によって、ひとつずつ順番に磁力を発生させます。その3つの電磁石の磁力の発生が、時間差によってズレるため、ローターが回転します。



電流の周波数を変えるインバーター

電動車に使われる3相の交流同期（シンクロナス）モーターの回転数は、電源である3相交流電気のプラスとマイナスを変化する速度＝周波数によって決まります。周波数が一定であれば、モーターの回転数は変わりません。ところが、それでは加速・減速を自在に変化させたい電動車には使えません。そのため、電動車では、インバーターを使って電流の周波数を変化させています。

具体的には、駆動用バッテリーが供給する直流電流を、インバーターの電気回路にあるトランジスタが高速でONとOFFを繰り返すことで交流に変換。ONとOFFの間隔を調整することで、交流電流の周波数をコントロールしているのです。



インバーターとコンバーター

電流を直流から交流に変化させる回路を「インバーター」と呼びます。そして、その逆に、交流電流を直流に変換する回路は「コンバーター」と呼ばれています。電動車の場合、駆動用バッテリーから12Vなどの補機バッテリー用に、直流電流を昇圧・降圧する回路として「DCDCコンバーター」も使われています。また、駆動用バッテリーではなく、100Vや200Vの交流電流を使って、モーターを制御する場合は、「コンバーターで直流電流を交流に変換」「インバーターで直流から交流に変換しつつ、周波数を制御する」という方法も使われています。

名称	働き
インバーター	直流電流を交流に変換。同時に周波数を制御する。
コンバーター	交流電流を直流に変換。直流電流を昇圧・降圧する場合はDCDCコンバーターと呼ばれる。

